

関東学生フットボールにおける、オフENSEのプレー数と獲得ヤードの関係性
The relation of number of play to gain yard about college football league in Kanto.

1K07A091-2 小池 翔

指導教員 主査 堀野博幸 先生 副査 鳥居俊 先生

【目的】

近年、日本のカレッジフットボールはオフENSEの多様化が進んでいる。その理由としては2002年度に立命館大学がショットガンオフENSEを駆使して日本一となって以来、ショットガンオフENSEが人気となった。2009年度から立命館大学はセットバックからのプロフォーメーションを復活させ、フットボールの原点である力を強調し、ベーシックなランプレーを軸としている。さらに、昨年度まで早稲田大学はいろいろなオフENSEプレーを展開して多彩とされてきたが、今年度はベーシックなランプレーを中心に試合を組み立て、安定したオフENSE力を発揮している。

そして、アメリカンフットボールにおいて数ある数値のなかでプレー数と獲得ヤードという計数データをもとに着目して考えていく。軸となるプレーを定め、プレー数を絞り精度で勝負するのか、多くの隊形・多くのプレーで相手を惑わしていくのか。その中でも最適なプレー数を調査し、これからのカレッジフットボールの進むべき道を示唆していきたいと思う。

【方法】

関東学生アメリカンフットボール1部リーグAブロックの法政大学の7試合・Bブロック出場校である駒澤大学、一橋大学、関東学院大学、立教大学、東京大学、中央大学、明治大学の全27試合の各チームのオフENSE計3563プレーを対象とした。エクセル2007を使用しスタツを作成し、それに基づき、プレーと獲得ヤードを抽出し、オートフィルタを使用してプレーを並び替え、プレー数をカウントして、グラフを作成し、割合をだしました。

【結果】

各大学の軸となるランプレー、ランとパスの比率を抽出しました。

表1 2010年度関東学生アメリカンフットボールリーグ1部Bブロックの各校ごとの軸となるランプレーと平均獲得ヤード

ランプレー①	獲得ヤード	ランプレー②	獲得ヤード	ランプレー③	獲得ヤード	ランプレー④	獲得ヤード	ランプレー⑤	獲得ヤード	
駒澤大学	kill blast	7	same option	5						
一橋大学	Sweep	316	Die Co	111	Power	214				
関東学院大学	Dive option	2	Power	35	Lead option	35				
立教大学	wedge dive	413	Coone	-05	Die	48	Power	63		
東京大学	Blast	538	Freeze option	684	Lead option	538	Blat dive option	817	Straight dive option	78
中央大学	power	451	Blast	821	Cuts	727	sweep	717	Lead Coon	44
明治大学	power	738	sweep	548	coone	726	Freeze option	66	Lead Coon	1173
早稲田大学	coone	508	cuts	1455	power	742				

表2 2010年度東日本代表決定戦決勝出場校 早稲田大学と法政大学の軸となるランプレーと平均獲得ヤード

ランプレー①	獲得ヤード	ランプレー②	獲得ヤード	ランプレー③	獲得ヤード	ランプレー④	獲得ヤード	
早稲田大学	coone	508	cuts	1455	power	742		
法政大学	lead option	873	coone	777	sweep	711	blast	938

表3 上位4校のランプレー、パスプレー、総プレー数とランプレーの割合

	ランプレー数	パスプレー数	総プレー数	ランプレー割合
法政大学	242	124	366	66%
早稲田大学	249	114	363	70%
中央大学	239	79	318	75%
明治大学	291	89	380	76%

【考察】

アメリカンフットボールにおいて、どういったオフENSEを展開しているチームが強いのかをまとめると、まずアメリカンフットボールにおいて、試合の主導権を握るのはランプレーである事が大前提である。その中で、どういったランプレーを展開しているチームが強いのかというと、

1. 軸となるランプレーを3つ以上もっていること。
2. さらにその軸となるランプレーの平均獲得ヤードが4ヤード以上を記録していること。
3. 軸となるランプレーの中で極端に獲得ヤードが低いプレーがないこと。
4. オフENSEのコール全体として、あまりにもランプレーに頼りすぎていないこと。
5. 様々なランプレーを展開するよりも、割合の高い1つのランプレーの獲得ヤードを高め、そこから他のランプレーを展開していくこと。

の5つが、アメリカンフットボールにおいて、強いチームを作る為のオフENSEの条件であることが考察できた。